

丸亀城管理室だより No.14

令和4年度の復旧工事

石垣崩落から5年目を迎えました。当初、回収石は約 6,000 個の見込みでしたが、令和4年4月時点で、既に 8,400 個以上を回収しました。地中部から石垣が次々と出現するなどして、回収石はまだ増える見込みですが、引き続き関係者一同力を合わせて頑張ります。



【石垣解体工事】

・三の丸石垣（南面）地中部に不安定な箇所が出現したため、追加して解体します。

【法面保護工事】

・降雨による掘削法面の浸食を防ぐため、モルタル吹付を行います。

【崩落石垣回収工事】

・引き続き崩落している石材を回収し、場内グラウンドで石材調査した後、積み直し時まで石材置場で保管します。



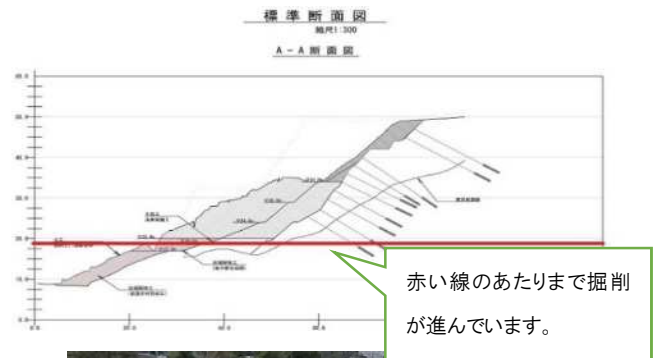
【モルタル吹付と崩落石回収の様子】

石垣解体工事の進捗状況

現在、三の丸えぼし石垣（すり落ちたC・D面の角）を中心に掘り下げ・石垣回収を行っており、令和4年4月末時点で海拔19mまで掘削が進んでいます。

この付近では、三の丸C面・D面石垣の基礎の可能性が高い石材群が発見されました。まだ不詳な部分が多く、その前方の崩落土の掘り下げと調査を進めます。

また、海拔24.5m～20.2m間のモルタル吹付が行われ、掘削法面の安定化も図られました。GW明けからD面の追加解体工事に向けての準備が進められています。



【三の丸C面・D面の基礎？のような石材群】

「十一」の刻印？

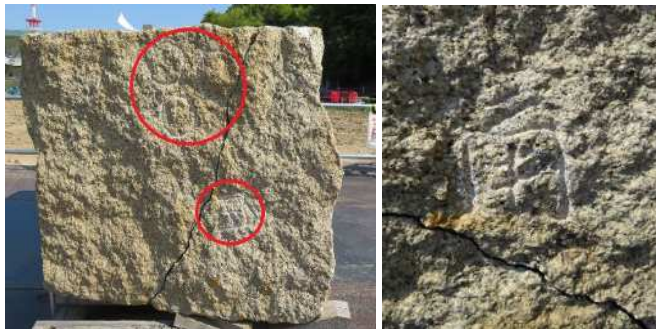
解体中のえぼし石垣の下部、CD角35段目の石には、「十一」と読める刻印がありました。現状では意味はわかりませんが、根石から11段目の角石を示すものであるかもしれません。三の丸石垣は最終的に地中どのくらいの深さに築かれているのでしょうか。今後の工事で全容が明らかになるのが楽しみです。



「角」の刻印

「十一」と読める刻印の少し上、CD角30段目の石に「〇3つ」と「角」と書かれた刻印が見つかりました。2つの刻印は、外からは見えないところに並べて刻まれていました。刻印の「角」の字は、真ん中の縦線が下に突き出ています。この字は「角」の異字体で、現在も名前などで使われています。

石を切り出した際の目印のように、角石にわざわざ「角」と刻むところに微笑ましさを感じますね。



【〇3つ（上）と角（下）】 【角の刻印のアップ】

焼きおつぼ 焼塩壺の出土

C面の39段目の栗石層から焼塩壺が出土しました。焼塩壺とは、精製していない塩をつめて蒸し焼きにした物です。苦味をなくして、さらさらした状態にするために使われ、そのまま塩の販売容器となりました。

本来、こうした食塩は上級武士や裕福な町人などの食卓に供されることが多い物ですが、石垣の栗層から出土したということは、築城工事に動員された石工や土工が、塩分摂取のために使用したのかもしれない。築城工事の肉体労働の過酷さに思いを馳せてしまいますね。



【出土当時の写真（左）と接合した後の写真（右）】

第73回丸亀お城まつりの開催

5月3日・4日に、丸亀お城まつりが3年ぶりに開催され、延べ14万4000人が来場しました。

石垣復旧工事現場では、「石垣復旧工事ではたらく車に乗ってみよう！」と題した、220トンのクレ

ーン車やパワーショベルの運転台に体験乗車できるイベントを開催しました。普段は、工事現場の外からしか見られない作業車の数々に乗れるとあって、お子様連れを中心に、各日90人ずつの定員はすぐ満員になりました。お子様たちは、色んなレバーを引いたり、クレーン車のオペレーターから直接話を聞けたりし、大喜びの様子でした。

また、乗車体験の他にも、回収石のパネル展示や市担当者による解説も行いました。市内外の多くの方々に、石垣復旧工事をPRできる良い機会となりました。



平和への祈りを込めた天守ライトアップ

4月13日～5月31日まで、丸亀城天守がウクライナの国旗と同じ青色と黄色の2色にライトアップされました。これは、ロシアによるウクライナ侵攻により、多くの犠牲者が出ていることを受け、平和への願いを込めて企画されたものです。

ウクライナ危機の早期解決と、恒久的な世界平和を願ってやみません。



作成：丸亀市教育委員会 文化財保存活用課
丸亀城管理室 TEL0877-23-2107